

行政視察等報告書（個人用）

平成30年10月19日

知立市議会議長 様

報告者	民友クラブ 杉浦 弘一
日時	平成30年10月11日(木)～10月12日(金)
視察(研修)場所	新潟県 長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡
目的	全国都市問題会議「市民協働による公共の拠点づくり」
【 概 要 】	
1. 市民協働による公共の拠点づくり	
(1) 市民協働による公共の拠点とは何か	
(2) なぜ今、市民協働による公共の拠点づくりを進めるのか	
(3) 市民協働による公共の拠点づくりに向けて	
2. 地方分権へのまなざし 東京大学 史料編纂所教授：本郷 和人	
(1) 日本は昔から中央集権か	
(2) 貨幣を例に	
(3) 地方行政の形骸化	
(4) 地域の特色	
(5) 武士と地方	
3. 長岡市の市民協働 新潟県 長岡市長：磯田 達伸	
(1) 長岡市の歴史	
(2) 長岡市の市民協働	
(3) 長岡市の人づくりと未来への投資～新しい米百俵～	
4. 市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント 三重県 津市長：前葉 泰幸	
(1) 住民自治の伝統	
(2) 公共施設マネジメントにおける市民との意思疎通	
(3) これからの公共施設マネジメント	
5. 場所の時代 建築家 東京大学教授：隈 研吾	
(1) 場所を主役とする時代の到来	
(2) 都市主義の終焉としての“3.11”	
(3) 小さなエレメントによる建築	
(4) 大きい建築を場所へつなくこと	
6. パネルディスカッション	
(1) 市民協働による公共の拠点づくり 明治大学 政治経済学部地域行政学科長・教授：牛山 久仁彦	

- (2) シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える「拠点」
東京理科大学 理工学部建築学科教授：伊藤 香織
- (3) 子育て支援から見た公共の拠点づくり
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長：奥山 千鶴子
- (4) 長岡市民主体のまちづくり
長岡市国際交流センター「地球ひろば」センター長：芳賀 友信
- (5) 地域包括ケアを支える新たな拠点づくり -NPO-との連携
埼玉県 和光市長：松本 武洋
- (6) 人・モノ・金の好循環を目指して
高知県 須崎市長：楠瀬 耕作

【 所感、知立市政への反映に向けた課題等 】

- ・市民協働による公共の拠点づくりに向けて
 - ・自治体が一方的に公共の拠点整備をするだけでは、市民の多様なニーズに 대응することができず、市民活動や協働の充実につながらない。
 - ・市民協働による公共の拠点づくりには、市民協働に携わる人材財の育成が必要不可欠である。
 - ・NPO法人は基より法人格をもたない市民による任意団体は、公共の拠点づくりには欠かせない担い手であるため、市民や行政の手による育成が必要である。
 - ・高齢化社会においては、特に時間的にゆとりのある高齢者の知識や技術を活かしやすい環境下にある。
 - ・SNSなどのネットを通じて、共通の目的を持つ人同士が繋がりやすく、互いに協力し、取り組んでいくことが容易になった。
 - ・地域の特徴をふまえ、公共施設の複合化、リノベーション、中心市街地の再開発についても、市民協働で取り組んでいく必要がある。
 - ・アモーレ長岡の例より、施設の設計から竣工後の事業企画・施設運営にいたるまで、市民の積極的な参加があったため、市民に愛される施設を建てることができた。

⇒ 知立市は、今まさに駅北地区市街地開発事業、連続立体交差事業の最中であり、今後も西新地地区、駅南地区の再開発事業が計画されていることから、先進地の事例を大いに参考とし、地域の現状や課題を的確に把握した上で、市民協働により、市民・市長・市職員・市議会(知立市)が、一体となって推進していく必要があると感じた。

また、アオーレ長岡の事例では、竣工後の維持管理費が、年間で約5億円かかることから、公共施設の複合化は、攻め(稼ぐ)の姿勢が不可欠であり、採算性を熟慮して計画していく必要があると感じた。

知立市の財政状況を鑑み、新公共施設の構築には、竣工後の維持管理を含め、総合的なマネジメントが必要とされる。